

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

イノベーションを起こすためには「変化の常態化」が必要

入山 章栄 (早稲田大学ビジネススクール教授)

1. そもそも知の探索は、経営学でイノベーションを起こす基本原理としてよく知られる概念です。イノベーションは、既存知と別の既存知の組み合わせから生まれますが、人の認知には限界があるため、自然に任せていると、新しい知を得ることは難しいものです。なるべく自分から遠く離れた場所にある知を幅広く知り、組み合わせる知の探索が重要です。
2. 私が最近、講演でよく触れるキーワードに「経路依存性」があります。これは、制度や仕組みが過去の歴史や経緯などに縛られ、固定化されてしまう現象を示す言葉です。イノベーションを起こす組織であるためには、この経路依存性からの脱却が欠かせません。
3. イノベーションには、変化を常態化させることが重要です。人間の行動に占める習慣の割合は意外と大きいもの。この習慣を変えることが変化を生み出すきっかけになります。そして企業文化とは醸成されるものではなく、意図的に作るものであり、いわば企業戦略であるというのが私の考えです。

(参考:「日経ビジネス」2023年10月2日号)

幹部への活きた言葉

「空洞化する卒業証書」に思う

福地 茂雄 (アサヒヒール社友)

1. 昨年、『日本経済新聞』の一面トップに、「揺らぐ人材立国」、『低学歴国』ニッポン博士減、研究衰退30年、産学官で意識改革を」という記事が掲載されました。さらに翌朝には、「空洞化する卒業証書、学び直し、企業も学校も」と書かれていました。問題を感じるのは、「空洞化する卒業証書」、つまり、相応の学力に達していないのに安易に卒業証書を渡すことです。
2. 最近、社会に出てからの学び直しのニーズが高まっています。しかしその一方で、在学中の時間の無駄遣いについても考えていく必要があると私は思います。学業の場は、事業の場と同じで、「いま成すべきことを十分成し遂げているか」「いま成すべきことを明日以降に延ばしていないか」を常に問うていくことが大切です。

(参考:「致知」2023年12月号)

経営者のための経済学

「高圧経済」の長所・短所

1. 熊本県や北海道で進む政府主導の半導体投資「高圧経済」と呼ばれるマクロ経済政策の一種です。政府が総需要を刺激すれば、労働参加率や生産性の引き上げなど供給サイドが変化するという内容で、2010年代に米国で注目されました。ただ、生産性の低い分野から高い分野に人や資金を移すことの弊害もあります。
2. 医療・介護といった業種は生産性が低くとも社会的ニーズの変化で就業者数が増えており、仮にこれらの業種から生産性の高い製造業やIT産業に労働者が動けば、質の高い医療・介護を受けたい人たちを無視することになりかねません。成長分野における民間投資の促進と、社会的ニーズとのバランスも同時に考える必要があります。

(参考:「週刊東洋経済」2023年10月14日号)

古典に学ぶ

人生で出会うあらゆるものが宝

1. 心が暗い時は真理に気づけず、出会うものすべてが禍わざわいとなる。しかし、世の理ことわりに目覚めれば、人生の道で出会うあらゆるものが宝となる。
2. 「心暗きとき」とは、先ほどお話しした「無明」の状態です。仏教では、あらゆる苦しみは、この無明から生じると考えます。しかし、真理を学び、悟りへと至ることで、出会うものすべて貴重な人生の財産となっていくのです。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)